



# 「茨城大会」開く

関東地区で初の開催。「古に乾杯、未来に乾杯」テーマに



水戸芸術館広場の特設ステージに、大井川和彦茨城県知事(左から5人目)ら来賓と主催団体関係者が勢揃いして、茨城の地酒で一斉乾杯。左から2人目＝日本酒で乾杯推進会議・100人委員会の石毛代表、同3人目＝茨城県酒造組合の廣瀬会長・大会実行委員長、右から5人目＝日本酒造組合中央会の篠原会長。中央は乾杯の発声を行った高橋水戸市長。

日本人なら、日本酒で乾杯！。日本酒と日本文化のルネッサンスをめざす日本酒で乾杯推進会議の茨城大会が、10月21日の午後、「古に乾杯、未来に乾杯」をテーマに、水戸芸術館で開催されました(主催：茨城県酒造組合、日本酒で乾杯推進会議茨城大会実行委員会／後援：茨城県、関東信越国税局ほか)。

関東地方では初の地方大会となった茨城大会の1日をレポートします。



水戸芸術館 ACM 劇場で行われた講演会の模様



芝生広場では「茨城の酒と食を楽しむ会」を開催



## 雨模様も何のその。県内外のファンが日本酒で乾杯！

日本酒で乾杯推進会議の地方大会は、「日本酒で乾杯」の全国普及を目的に毎年開催されるもので、10月1日・日本酒の日に東京で開かれる総会・フォーラム&懇親パーティと並ぶ、同会議の重要行事のひとつ。通算12回目となった今回は、①茨城県と関わりの深い有識者2氏による講演会、②大会関係者限定の乾杯セレモニー、③一般市民に県内30蔵の地酒と郷土の食を供する「茨城の酒と食を楽しむ会」というプログラム構成で、会場には、生憎の雨模様もモノともせず、県内外から大勢の来場者が訪れて、「日本酒で乾杯」の一日を堪能していました。



「茨城の酒と食を楽しむ会」の会場エントランス。中央にそびえるのは、おなじみの水戸芸術館タワー。



### 来賓&主催者 お祝いの言葉

乾杯セレモニー冒頭に行われた主催者挨拶、来賓の歓迎挨拶からー。

#### ・大井川茨城県知事の歓迎挨拶

日本酒で乾杯推進会議の地方大会が、ここ茨城県で開催されることを心から歓迎します。茨城県内には、関東で最も多い45の酒蔵が存在します。日本酒は茨城県の重要な産業であり、私も知事としてぜひ日本酒で茨城県を盛り立てていきたいと考えています。また、日本文化のブランドとして、日本酒が世界で注目されるようになることを期待しています。



#### ・中央会・篠原会長

茨城大会の開催にご尽力頂いた廣瀬会長以下、関係者各位に感謝する。現在、115の自治体で乾杯条例が制定されている。こういう動きが広がって、日本文化が見直されることを期待する。



#### ・廣瀬実行委員長

本日は大井川知事をはじめ、県内で乾杯条例を制定している7市の首長さんにも駆けつけて頂いた。その他、大勢の関係者とともに、こうして茨城県大会を開催できたことを本当にうれしく思う。



## 茨城にエール。軽妙率直な講演が聴衆を魅了



水戸芸術館内の ACM 劇場で行われた講演会(14:00~16:00)では、廣瀬大会実行委員長、石毛日本酒で乾杯推進会議代表の挨拶の後、札幌市立大学学長で、元筑波大教授の蓮見孝氏と、茨城県稲敷市の大杉神社宮司・市川久仁守氏の 2 人が、それぞれ「いばらき 日本酒王国」、「神々の興宴」と題して講演。茨城へのエールを込めた軽妙かつ率直なお話が、聴衆(定員 300 名)を魅了しました。

- ① 蓮見氏のお話は、筑波大学在籍時、純茨城の酒「ピュア茨城」のデザインプロモーションに携わった経験などを踏まえて、茨城県産酒への期待を示したもの。話の最後に蓮見氏は「日本酒王国を作るためには、多くの人々が日本酒を愛し、日本の食・文化にプライドを持つこと。そんな日本酒王国・茨城を作ってほしい」と呼びかけました。
- ② 1240 年の歴史を持つ大杉神社を改修、若者の人気スポットにアップデートした市川氏は、「伝統は大事だが拘わりすぎではダメ。長い歴史を持つ日本酒は、歴史そのものが財産だが、同時に現代人に合う工夫も必要だ」とした上で、「もっと買やすく、飲みやすい日本酒、例えばノンアルコールでも美味しい日本酒があってもいい」と、日本酒を愛するが故のアドバイス。



### セレモニーの風景

講演会終了後、大会関係者が一堂に会して乾杯セレモニーが行われ、ピュア茨城と笠間焼の杯で乾杯(発声は大井川知事)した後、歓談のひと時を過ごしました。



ピュア茨城と笠間焼の杯で乾杯！



2013 年の口笛世界大会ティーン部門で優勝した加藤万理奈さん(水戸市)が、見事な技で参加者をおもてなし。



テーブルの上にも

ピュア茨城



大井川知事と廣瀬会長



# 県組合入魂の「茨城の酒と食を楽しむ会」



屋内での行事を終えて、会場正面の特設ステージに、主催者、来賓、県内乾杯条例施行7自治体（水戸市、笠間市、石岡市、結城市、常陸太田市、日立市、潮来市）の市長が勢揃い。来場者が見守る中、威勢よく鏡開き。

今大会の目玉として企画されたのが「茨城の酒と食を楽しむ会」(14:30～19:00)。「県内初の大規模地酒パーティ」(組合関係者)という気合いの入ったイベントだけに、会場となった水戸芸術館前の広場には、「千葉から来ました。雨降りは残念だけど、飲んだら気にならない」「水戸市民です。皆と一緒に乾杯したくて友だちと参加しました」といった熱心なファンが続々と会場(800名限定)。県内30歳のテーブルを巡って蔵元関係者や談笑したり、郷土料理(常陸牛の焼き肉など)に舌鼓を打ったりして、元気いっぱいビッグイベントを楽しんでいました(会場スナップは次頁に)。



■特設ステージでは、津軽三味線や伝統神楽の実演などが行われ、来場者を楽しませました。



■ずらり並んだ蔵元のテーブル。談笑の明るい声が響く。

■会場の一画では、笠間焼の酒器を紹介する「酒と器展」のコーナーも。



古に乾杯  
未来へ乾杯

# ★ 茨城の酒と食を楽しむ会



「こっちも撮ってー」「キレイに撮ってよー」「茨城の地酒でカンパイ」「この写真何に載せるの？」皆さん、いい笑顔です。



「寒いー」「日本酒で暖まってね」



樽酒もどんどん減っていく。



ヒョットコと升酒を酌み交わす



茨城県内各自治体のミスたちも勢揃い(特設ステージ)。



もう一回、カンパいしよ



夜に入って雨も小降りに。会場のにぎわいは、まだ続く



日本酒で乾杯推進会議 茨城大会  
水戸芸術館 2017.10.21